

# 苫小牧市立はなぞの幼稚園のあり方について（案）

平成 24 年 7 月

苫小牧市教育委員会

## はじめに

苫小牧市立はなぞの幼稚園は、市内でただ一つの公立幼稚園です。昭和 34 年当時、幼児教育に対するニーズが高まるなか、市民の強い要請を受け、苫小牧市立苫小牧幼稚園として開園し現在に至っています。

一時は園児数が増加し分園を設けた時期もありましたが、近年、少子化の影響や相次ぐ私立幼稚園の開園等で、平成 14 年度以降は定員割れが続いています。こうした中、はなぞの幼稚園は、障がいの疑いのある園児を積極的に受入れ、統合保育の充実を経営方針の一つとして運営してきました。

しかし、園児数は年々減少の一途をたどり、公立の幼稚園として運営を継続することが適当なのかどうかを検討しなければならない状況になっています。

市では平成 22 年 9 月に策定した「苫小牧市行政改革プラン」において、市立及び私立幼稚園の実態調査等を行った上で平成 24 年度までに、はなぞの幼稚園の存廃について、方向性を決定するという考え方を示しました。

苫小牧市教育委員会では、苫小牧市の幼稚園及び保育園の実態や障がい児の現状を把握しながら、今後の市立はなぞの幼稚園の方向性を探るため「苫小牧市立はなぞの幼稚園のあり方について」以下のとおりまとめました。

## 第1章 市立はなぞの幼稚園の概要と現状

### 1. はなぞの幼稚園の概要等

#### (1) 沿革

昭和34年1月18日	函館市・美唄市に次ぐ道内6番目の公立幼稚園として北光町に「苫小牧市立苫小牧幼稚園」を開園
昭和48年4月	大成町に「市立幼稚園大成分園」を開園
平成3年4月1日	本園、分園を閉園し、花園町に「苫小牧市立はなぞの幼稚園」を開園

#### (2) 概要

所在地	苫小牧市花園町2丁目11番15号
園地	4,012㎡（建設面積 946㎡）
開園	平成3年4月1日（新設）
定員	4歳児70人（2学級） 5歳児70人（2学級）

#### (3) 保育の特色

- ・ 幼児一人ひとりの個性を伸ばす教育
- ・ 遊びを通しての総合的な保育
- ・ 障がいの疑いのある幼児と健常児との統合保育

#### (4) 経営方針

- ① 自由な遊びを通して達成感や充実感、挫折感や葛藤を体験することで、「豊かな心」と「生きる力」を培う園生活の創造に努める。
- ② 「親と子の育ちの場」として幼稚園の機能と役割を果たす子育て相談活動を重視するとともに、地域社会との結び付きを強め、「開かれた幼稚園経営」に努める。
- ③ 学級を二人の教師で担任して障がいを抱える個々の幼児の様態を把握し、他の幼児との「統合保育」の一層の充実に努める。
- ④ 小中学校教師の研修や児童・生徒の体験の場として積極的に園開放するとともに、園児の円滑な小学校就学のための連携を密にする。

### 2. はなぞの幼稚園の現状

#### (1) 園児数の推移

はなぞの幼稚園の定員は4歳児、5歳児それぞれ2学級70名で、合計4学級140名としています。

平成13年度までは定員数を維持してきましたが、その後、少子化等の影響で定員割れが続き、特に、平成18年度からの充足率は50%を割り、園児数の減少が顕著となっています。

平成 24 年度には充足率が 27.9%まで落ち込み、こうした減少傾向は今後も続くものと予測されます。

はなぞの幼稚園の平成 12 年度から 24 年度までの園児数の推移は下表のとおりとなっています。

◆「はなぞの幼稚園」入園児の推移

毎年 5 月 1 日現在

年度	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	
定員	140	140	140	140	140	140	140	140	140	140	140	140	140	
園 次 数	4歳児	70	70	58	35	38	34	19	33	29	30	27	20	16
	5歳児	70	70	70	61	44	45	41	22	39	34	31	31	23
	計	140	140	128	96	82	79	60	55	68	64	58	51	39
学級数	4	4	4	3	4	3	3	2	3	2	2	2	2	
充足率(%)	100	100	91.4	68.6	58.6	56.4	42.9	39.3	48.6	45.7	41.4	36.4	27.9	

(2) 障がいの疑いのある園児の推移（園児数の内数）

園児数が減少する中、はなぞの幼稚園では障がいの疑いのある園児を積極的に受入れ、統合保育の充実を目指し運営してきました。障がいの疑いのある園児数の推移については年度によって増減が見られます。

(3) 職員体制

○配置基準～園長 1 名（嘱託）

総務担当教諭 1 名、1 学級担任教諭 2 名（正規、嘱託）

保育補助教諭（適宜臨時）

その他職員（嘱託事務職 1 名、嘱託公務補 1 名）

幼稚園教諭の配置については、学級数の減少に合わせ教諭も減員となっています。

その年により学級数が増となった場合は嘱託教諭を充て対応してきました。

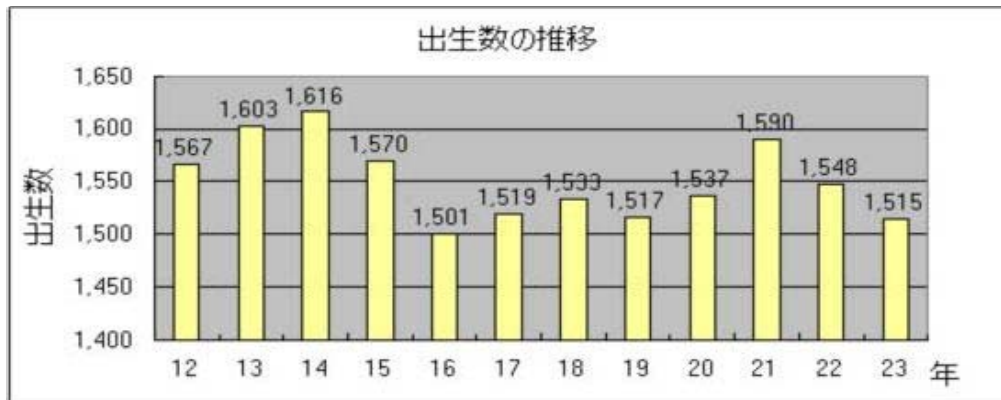
年度	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
園長嘱託	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
教諭	9	9	9	8	6	6	6	5	5	5	5	5	5
その他職員嘱託	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
保育補助臨時					2	1	1	1	1	1	1	1	1

## 第2章 苫小牧市の未就学児の現状等

### ◆出生数の推移

各年1月～12月までの合計数値

年	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23
出生数	1,567	1,603	1,616	1,570	1,501	1,519	1,533	1,517	1,537	1,590	1,548	1,515

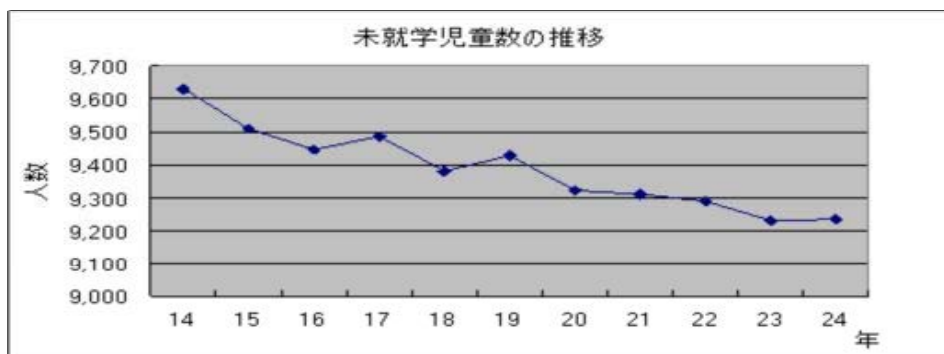


全国的に少子化傾向が強まる中、本市における状況も例外ではなく、ここ十数年の出生数は減少傾向にあり、今後大幅に増加することは見込まれない状況です。

### ◆未就学児童人口の推移

各年4月末

年	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
0歳	1,559	1,559	1,510	1,477	1,462	1,515	1,489	1,509	1,529	1,530	1,486
1歳	1,535	1,595	1,609	1,586	1,516	1,488	1,555	1,546	1,538	1,539	1,536
2歳	1,619	1,524	1,598	1,635	1,588	1,548	1,501	1,583	1,554	1,553	1,549
3歳	1,568	1,618	1,548	1,604	1,619	1,618	1,553	1,523	1,589	1,548	1,537
4歳	1,668	1,550	1,628	1,565	1,609	1,637	1,596	1,560	1,509	1,577	1,536
5歳	1,681	1,663	1,553	1,619	1,587	1,622	1,629	1,590	1,571	1,485	1,592
計	9,630	9,509	9,446	9,486	9,381	9,428	9,323	9,311	9,290	9,232	9,236



未就学児童の人口推移についても出生数と同様に減少傾向が見られ、ここ数年は横ばい傾向が続くものと考えられます。

## ◆未就学児の入園・入所状況

各年度5月1日

年度		17	18	19	20	21	22	23	24
市立幼稚園	0～2歳児	-	-	-	-	-	-	-	-
	3歳児	-	-	-	-	-	-	-	-
	4歳児	34	19	33	29	30	27	20	16
	5歳児	45	41	22	39	34	31	31	23
	合計	79	60	55	68	64	58	51	39
私立幼稚園	0～2歳児	-	-	-	-	-	-	-	-
	3歳児	598	631	574	606	620	685	721	728
	4歳児	1,035	1,112	1,121	1,080	1,091	1,071	1,095	1,027
	5歳児	1,114	1,096	1,126	1,154	1,115	1,140	1,080	1,123
	合計	2,747	2,839	2,821	2,840	2,826	2,896	2,896	2,878
認可保育園	0～2歳児	564	580	559	590	620	577	602	598
	3歳児	330	321	327	305	309	316	302	324
	4歳児	337	350	347	338	337	313	322	329
	5歳児	379	352	374	351	347	340	315	330
	合計	1,610	1,603	1,607	1,584	1,613	1,546	1,541	1,581
合計	0～2歳児	564	580	559	590	620	577	602	598
	3歳児	932	950	887	911	929	1,001	1,023	1,052
	4歳児	1,409	1,481	1,515	1,447	1,458	1,411	1,437	1,372
	5歳児	1,554	1,488	1,522	1,544	1,496	1,511	1,426	1,476
	合計	4,459	4,499	4,483	4,492	4,503	4,500	4,488	4,498

市内の未就学児の入園・入所の状況は別表のとおりであり、今後も横ばい傾向で推移するものと推測されます。

## 《市立幼稚園》

市立幼稚園では送迎バスを持たないことなど、私立幼稚園に比べて保護者の負担が大きいことで敬遠されているものかと考えられます。

## 《私立幼稚園》

各園において特色ある保育方針を打ち出し園児確保に努めています。

## 《認可保育園》

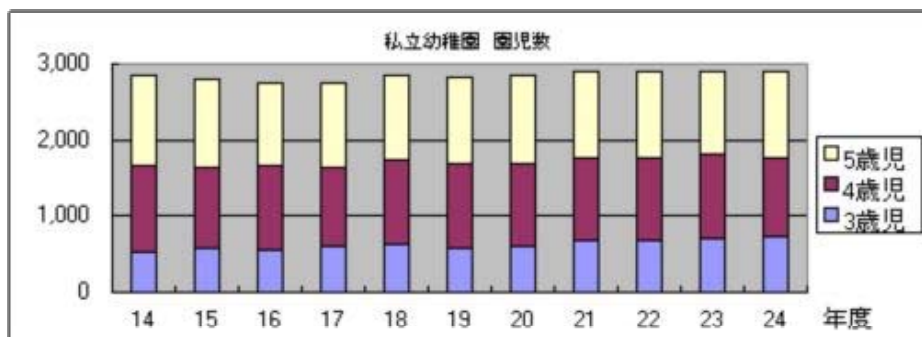
認可保育園の多くは定数をほぼ充足している状況で、働く女性が増えたことから保育園の需要が高まっており、待機児童に対する対応が今後の課題です。

### 第3章 私立幼稚園の現状等

#### ◆私立幼稚園数及び園児数

各年度 5月1日

年度	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
園数	20	20	22	22	22	22	22	22	22	22	22
認可定員	3,740	3,580	3,620	3,620	3,655	3,655	3,785	3,785	3,785	3,785	3,785
園児数	3歳児	543	589	564	598	631	574	606	685	685	721
	4歳児	1,112	1,051	1,098	1,035	1,112	1,121	1,080	1,071	1,071	1,095
	5歳児	1,179	1,151	1,078	1,114	1,096	1,126	1,154	1,140	1,140	1,080
	計	2,834	2,791	2,740	2,747	2,839	2,821	2,840	2,896	2,896	2,896
充足率(%)	75.78	77.96	75.69	75.88	77.67	77.18	75.03	76.51	76.51	76.92	76.04



未就学児の数が少々ではあるが減少傾向にある中、私立幼稚園の園児数は横ばいの状況です。認可定員に満たない園もあり、少子化が続く中で特色ある教育方針を打ち出して園児確保を図っています。

#### ◆障がい児数 (受入幼稚園数及び園児数)

各年度 5月1日

年度	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24
受入園数	9	9	8	9	8	7	7	10	12	11	12
園児数	3歳児	3	9	5	7	8	7	5	5	26	15
	4歳児	17	13	14	14	17	15	23	18	30	27
	5歳児	9	18	15	19	12	19	16	23	25	28
	計	29	40	34	40	37	41	44	46	81	70

障がい児の受け入れについては入園希望には出来るだけ対応する考えの園が多く、24年度では20園中、12園で受け入れしています。

## 第4章 苫小牧市の障がい児の現状等

苫小牧市の障がい児の実態については、心身障がい者福祉センター「おおぞら園」の実態に基づき現状を捉えています。おおぞら園は、心身に障がい、あるいは発達に遅れやつまづきが見られ、通園して訓練指導が必要な、原則、就学前の児童を対象に児童ディサービス等を実施しています。

### ◆おおぞら園の障がい児の現状

平成24年4月1日現在

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
肢体不自由	1	3	4	4	8	6	26
知的障がい		3	1	1	3	2	10
言語障がい					1		1
広汎性発達障がい			3	3	6	17	29
視覚障がい							0
ADHD、未診断等		1	13	26	35	50	125
合計	1	7	21	34	53	75	191

障がい児の現状は別表のとおりですが、潜在的な障がいの疑いのある幼児の数を図り知ることは極めて難しい状況にあります。「広汎性発達障がい」などは、幼稚園や保育園に入園後、他の幼児との共同生活の中で発達の遅れや障がいの傾向が現れる場合もあり、障がいの程度もそれぞれに違うことから、障がいと判定し難いケースも多数見受けられます。

「おおぞら園」では、発達の遅れなどを、通園による訓練指導により、個々に適切な訓練が受けられるように取り組んでいます。

## 第5章 私立幼稚園の障がい児の受入状況

私立幼稚園における障がい児の受入状況等を把握するため、昨23年9月に市内私立幼稚園22園に対し、園児の在籍内容や、障がい児の受入基準など10項目にわたるアンケート調査を行い、20園から回答をいただきました。

回答内容の主なものについては次のとおりです。

### 1 園児の在籍内容について

園児の在籍内容について、各園の許認可定数、在籍数、内障がい児数などについて調査しました。この質問では、回答のあった20園中13の園で障がい児を受け入れており、23年5月の調査時から3園増えていることが分かりました。

### 2 障がい児が通園している場合

障がい児が通園している13園に対して、障がい児の入園基準を設けているかとの質問に対しては、基準を設けている園はありませんでした。

### 3 障がい児を受け入れていない場合

障がい児を受け入れていない7園に、その理由を聞きましたが、うち3園は「希望者がいなかった」と回答しており、希望者がいれば受入れ可能か、あるいは検討の余地はあると思われる回答となっています。

次に、受入れ不可と回答した2園については、「どのような条件が整えば受入れ可能か」との質問に対し、施設の改修や職員配置のための十分な予算や専任職員の配置が必要と答えています。

今回のアンケートの結果、障がい児の受入れに関しては各園とも前向きであることがわかりましたが、ほとんどの園が受入基準を設けていないことから、受入可能な障がいの種類や程度については不明となっています。

また、受入れについての課題は、各園とも人材の確保とそれに伴う人件費及び施設整備に伴う経費が主なものとなっています。

さらに、障がい児に対して充実した幼児教育を行うためには、道や市の補助金の適用範囲の拡大や、市の助成を北海道の助成水準と同程度にできないかなどの要望もあがっています。



## 第6章 苫小牧市立はなぞの幼稚園の存廃について

### 《存続の意義》

市立はなぞの幼稚園は、障がいの疑いのある幼児と健常児との統合保育を目指し、学級を二人担任制により個々の幼児の様態を把握しながら、きめ細かい指導を特色としています。

私立幼稚園や保育園に入園後に、発達の遅れや障がいの疑いを持たれ、年度途中で転園を余儀なくされるケースもあり、その受け皿的な役割も担っています。

また、地域社会との結びつきを強め「開かれた幼稚園」を目指し、地域と連携の他にも、小学校就学に向けた学保連携も積極的に進めています。

私立幼稚園では見られないこれらの特色は、公立幼稚園であればこそ可能なことであり、その存在意義が認められるところです。

### 《廃園に対する考え方》

近年の少子化傾向は今後も続くと考えられ、在籍数が減少傾向にあることは明らかで、既に定員数の30%を下回るに至っており、現状のままでは二人担任制を維持していくことも難しく、在籍数に見合った人員配置を考えなければならない状況です。

入園希望者を増やすために、送迎バスの導入や施設の改修等が考えられますが、現下の厳しい財政状況では新たな費用捻出を伴う方策については実現の見通しは立ちません。

障がい児や障がいの疑いのある幼児を積極的受入れ、これに特化することは、統合保育の理念から外れることとなります。また、統合保育を維持しつつ障がい児の指導に比重が多くなることに対しては、健常児の保護者からの理解を得る必要があります。

二人担任制によるきめ細かな指導と、障がい児と健常児との統合保育という本園の独自性を維持することが難しい今、廃園も避けられない状況にあります。

### 【結論】

本市の幼児教育をリードし、時代に即した教育方針で運営してきた「市立はなぞの幼稚園」は、公立幼稚園としての使命を十分に果たし終えたものと考えます。

障がい児と障がいの疑いのある幼児の対応について、十分なケアが保証される道筋を明らかにすることにより、現在、在園中の4歳児が卒園する25年度末をもって「市立はなぞの幼稚園」を廃園すべきと考えます。

陳 情 文 書 表

受 理	平成 2 4 年 8 月 2 7 日	付 託	第 7 回 定 例 会 平成 2 4 年 9 月 1 1 日 文 教 経 済 委 員 会
-----	--------------------	-----	--

陳 情 第 5 号

市立はなぞの幼稚園の存廃に対する十分な説明責任を求める陳情

提出者の住所・氏名



陳 情 の 要 旨

私たちは、本年 8 月 3 日、市立はなぞの幼稚園の廃園に関する考え方や、これに伴い新年度の 4 歳児の募集を本年 10 月に中止するなどとした報告を市教育委員会から唐突に聞かされました。本年 4 月に行われた入園説明会のときには、全く聞かされていなかった話だったため、まさに青天のへきれきで大変驚きました。

市立はなぞの幼稚園は、2 人担任制の導入や疑障児との統合保育の実施など、大変特色のある幼稚園であるとともに、保護者と先生の連携が非常に密接で安心して子供を通わせることができる幼稚園です。また、市内唯一の公立である市立はなぞの幼稚園の保育料は民間幼稚園と比較しても安価であり、経済的な面からも公立幼稚園の役割は大きなものです。

多くの家庭では、半年から 1 年という長い時間をかけて幼稚園選びをしています。既に兄弟姉妹を新年度から同じ幼稚園に入園させたいと考えている保護者や、評判を聞きつけ新たに市立はなぞの幼稚園へ入園させたいと考えている声も聞き及んでいます。

このような状況があるにもかかわらず市教育委員会は、年度途中である 8 月に廃園の方向性を示し、10 月には募集を停止するというのです。余りにも唐突かつ考える時間もない中での説明であり、市民や保護者への配慮が全く見られないと言わざるを得ません。また、本年 4 月に事前周知がないまま入園した 4 歳児は、来年度、年長さんとして年中さんがいない中で、幼児期に必要な集団生活を偏った形で幼稚園生活を送ることになります。さらに、同月 20 日に開催された 2 回目の保護者会では、さきに行われた説明会のときに求めた詳し

い資料や今後の考え方について、前回と同じ説明を繰り返すのみで全く進展が望めず、丁寧かつ的確な説明を果たしているとは思えません。

よって、貴市議会におかれましては、私どもの切実な願いを聞き入れていただき、在園する子供たち、そして来年度入園を希望している子供たちのためにも、下記事項につきまして特段の配慮をしていただきたく陳情いたします。

#### 記

- 1 市教育委員会は、保護者及び市民に対し、廃園の理由や今後のあり方について、十分な期間を設け、丁寧かつ的確な説明を行うこと。
- 2 本年10月に予定している新年度の4歳児の園児募集停止を延期すること。
- 3 市立はなぞの幼稚園の廃園を延期すること。

陳 情 文 書 表

受 理	平成 2 4 年 9 月 4 日	付 託	第 7 回 定 例 会 平成 2 4 年 9 月 1 1 日 文 教 経 済 委 員 会
-----	------------------	-----	--

陳 情 第 6 号

苫小牧市立はなぞの幼稚園の存続を求める陳情

提出者の住所・氏名



陳 情 の 要 旨

市立はなぞの幼稚園は設立の趣旨からも、保育現場と保護者、地域や小学校と密接に連携し、親子で成長できるとともに、障害の有無にかかわらず真の統合保育を実践しており、全国でも先進的な幼稚園行政を実践しています。

近年、私立幼稚園も障害児や障害の疑いのある児童の受け入れが可能と伺っておりますが、厳しい経済環境から私立幼稚園に入れることができない家庭が多く、すばらしい統合保育と評価の高い市立はなぞの幼稚園への入園を望む声が多いのも実態です。

また、市立はなぞの幼稚園は資源回収やバザー、音楽サークルコンサートなどのPTAの活動が盛んであり、子供の笑顔を見ながら保護者同士の交流を深めながら親としての成長の場にもなっております。

このような市立はなぞの幼稚園独自の取り組みや統合保育のよさをもっとアピールすることにより、園児をふやすことができると考えます。

それにもかかわらず、保護者の同意がないまま一方的に廃園を結論づけることが納得できません。保護者説明会や住民説明会では赤字であることが廃園の理由であると説明されておりましたが、財政的な理由だけで廃園を決めるのはどうかと思います。私たちOB・OGもこのすばらしい雰囲気幼稚園を絶対なくしてはいけないと思いアピールするチャンスをいただきたいと切に願います。

よって貴市議会におかれましては、市立はなぞの幼稚園の存廃については、保護者はもちろん、これまでかかわってきたOB・OG、地域の方や今後入園を希望する市民の声を尊重し、慎重に判断していただき、存続できる環境整備を維持されるよう陳情いたします。